

# 事業報告書



特定非営利活動法人 W i N G-路をはこぶ

the Way Into the New Generation !

W・I・N・G !

2012 年度

## 社会を変えるということは・・・

笑顔を作り、社会を変える・・・福祉の担う役割はそこにある。

大きな社会的矛盾が眼前にあるとき、あるいは構造的に潜み、その在り処がわからないとき、どのように社会を変えていくのか。法律を作ったり、議会で多数派を占めようとしたり、あるいは暴力革命の道を選択する人々もいるでしょう。エジプト・・・初めての民主選挙によって選ばれた我が大統領を武力によって倒すことに熱狂する人々。それは、表面的に社会を変えたように見えても、根本的な構造が変化しなければ無意味であることの証左のようにも見えます。

しかし、そのような表面的な変化もまた、構造的な変化の一部であり、まったくの表層的なものが無意味だとは言いきれません。表面的な動きであってもそれが大きな動きとなって、構造的な変換へと行き着くこともないでしょうか。否、マルクス史観に立てばそれは幻なのでしょう。

いずれにしろ、私たちが社会を変化させる力は、表層的であれ、構造的であれ、源泉は笑顔です。重い障害を持った方々の笑顔そのものの力、さらにはその笑顔を感じることでできる人々の存在、また笑顔となれる社会、それこそが「笑顔を作り、社会を変える」こと。その笑顔によって変化した社会は、真の力を持ち、暴力さえも受け付けません。

私たちに笑顔を作れるのでしょうか。

多くのスタッフが描く笑顔はそれぞれ異なっているのでしょうか。

私たちの想像力、実行力、キャパシティ・・・その実力故にそれぞれのスタッフが描く笑顔に違いが見えるのだとしたら、自らを改良する力がほしい。あきらめることなく、試行・思考を続ける力がほしい。その力もまた笑顔に支えられ、新たな笑顔を作りだすことに繋がるに違いありません。

特定非営利活動法人W・I・N・G - 路をはこ

代表理事 菅野 眞弓

～ 目 次 ～

活動報告

ホームヘルパー派遣事業	4
国際交流事業	4
地域交流事業	5
映画	6
フリーマーケット	6
“Tamariba”コンサート	7
“Tamariba”クラブ	8
講座	10
グループホーム準備施設“もくもく”	10
成年後見人	11
被災地支援	11
SENDEX2012	12
KIMES2013	14
パラム・クム	19
galerie“見る倉庫”	20
スタッフ採用	21
医療的ケア	22
2013年度への課題	22
社員総会の開催状況	23
理事会の開催状況	24
監査報告書	25

## 事業期間

2012年4月1日 ~ 2013年3月31日

## 事業の成果

### 《非営利活動》

#### 【ホームヘルパー派遣事業】

重度訪問介護の派遣要請は変わらず続いています。

しかし、重度訪問介護の場合、支援は必然的に夜間ケアの割合が高く、このためスタッフが支援に関われば関わるほど、休養等の配慮が必要となります。2012年度はスタッフの労働環境と整えるという観点から、夜間ケアについては一定程度制限を行ったため、全体的な派遣時間は3割程度減少しました。

児童として関わり始めた派遣先では、年齢を重ねて学校を卒業、「者」として関わる方々も出てきました。学校から地域の活動拠点・施設へと進路を進めることによって、私たちの関わる時間が減少することも想像しましたが、実際は従前と変わらない派遣が続いています。これは、通所施設の開所時間が短かったり、御家族が仕事をされ、夕方以降の支援が必要となるためです。

御家族も徐々に高齢化するなか、児童であった派遣先の将来に私たちが関わる可能性も感じられるようになってきました。ある利用者さんは既にケアホームでの生活をスタート。ケアホームからの外出支援に私たちが携わることになりました。普段、関わる時間が短い一方で、関わる期間は長期に及んでいます。その間、退職・異動等でスタッフが変わるものの、法人として長期に関わることの意味、そして関わり方の変化には常に注意を払い、関心を持ち続ける必要があります。

#### 【国際交流事業】

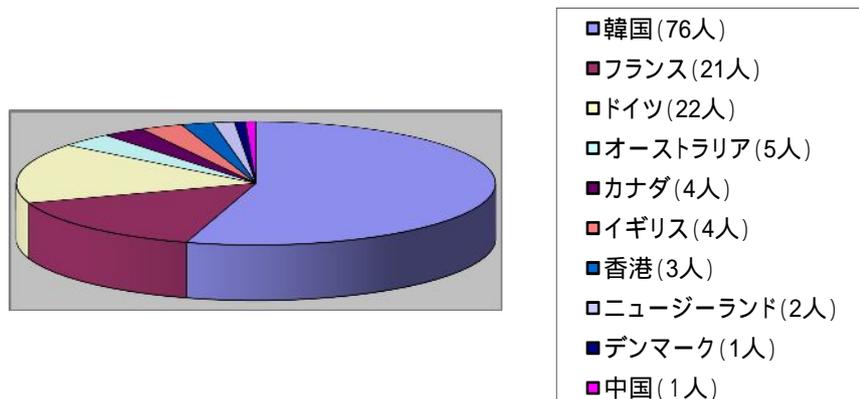
ドイツの日独平和フォーラムからの国際交流スタッフの受け入れも3期目を迎え、今年度は3人(女性2名、男性1名)が来日しました。

2012年度は彼らを含め、計13名(韓国



7名、ドイツ3名、フランス1名、ニュージーランド1名、香港1名)が活躍しました。

韓国の場合、ワーキングホリデー協会（韓国は民間会社が経営）との連携ができ、協会を通じての来日が相次ぎました。韓国、ドイツはこれらの団体を通じた就労が大きな割合を占めました。



外国人スタッフの受け入れは10年を超え、スタッフも受け入れそのものに抵抗感を示すということはありませんでした。しかし、指導のあり方については課題が依然残ります。福祉の現場での経験がない方がほとんどだけに、当初は“慣れる”ことで精一杯なのですが、表面的な手順・作業を一通り覚えた後、単なるアルバイトとして時間を過ごすケースが多いようです。異文化のなかでの就労体験は、なかなかできるものではありません。日本人スタッフが何を考え、どのように仕事をしているのか、残業をどのようにやってるのか、貪欲に知ろうとしてもいいのでは・・・と思うのですが。彼らの滞在期間は最長1年。1年を体験とするか、経験とするか、その視点をもって指導方法を検討したいと考えています。

## 地域交流事業【フリースペース Tamariba (たまりば)】

昨年度同様、Tamaribaの活用、本来目指すべき活動のありように少しずつ近づこうという試みが続きました。これまで別々に運営してきた各活動ですが、担当スタッフが横に連携を図ったり、情報を交換するなど徐々に成果が見え始めました。

一方で、助成金・補助金への取り組みは進みませんでした。直接支援の仕事が忙しいという面はあるものの、それ以上に書類の取得、制作に対する心理的ハードルの高さが影響していると考えられます。

また自主的に活動に取り組むスタッフと、それを見守るスタッフとの数的バランスも課題です。何か手伝うことがあればと考えるスタッフは多いのですが、

創造的に自主的に活動を“建設”することのできるスタッフは多くなく、Tamariba の活性化には、この種のスタッフの養成をどうするかが大きな鍵を握っていると言えるでしょう。活動場所は既に用意されており、後は“動く”だけである状況を真に認識する必要があります。

## 映 画

月 1 回の上映を継続しています。施設内行事の域を越えることが難しい状況は続いています。

まさしく「コミュニティシネマ」としての位置づけを明確にして、上映 PR を行うことが課題です。地域との交流活動として活発化することは十分に可能です。映画文化をコミュニティのなかで維持、発展させるのだという自覚も必要で、映像を単なる消耗品としてでなく、文化のなかに位置づける試みとしての Tamariba 映画を創り上げる必要性は今後ますます高まっていくことと思われます。

### 2012年度 Tamariba 映画鑑賞会での上映作品

4月	マーリー 世界一おバカな犬が教えてくれたこと
5月	容疑者 X の献身
6月	ワイルドスピード MEGA MAX
7月	奇跡
8月	プリンセス・トヨトミ
9月	ヒューゴの不思議な発明
10月	男はつらいよ 寅次郎恋やつれ
11月	ミッション・インポッシブル ゴーストプロトコル
12月	戦火の馬
1月	BECK
2月	のだめカンタービレ
3月	忍たま乱太郎 実写版

## フリーマーケット

フリーマーケット自体は地域のおなじみの行事となり、多くの方々に認知いただいています。しかし、スペースという物理的条件はいかんともし難く、たくさんのブースを出していただくという規模には至りません。規模の大小が価値を決めるものではありませんが、近くの公園を利用し、Tamariba での開催と同時に行い、出展者増、集客を図ることも一考でしょう。

出店者の多様化に向けての試みも課題です。地域の学童保育所や少年野球などバザー等を開催する可能性のある団体と合同開催を呼びかけは大いに検討の余地があります。

### 2012 年度フリーマーケットの開催状況

開催日	参加ブース	イベント	1 ブースあたりの売上平均
4月22日	15	笑楽さん	5500 円
6月17日	18	切り紙 似顔絵	6220 円
8月26日	13	カキ氷 シニアボラ	6083 円
10月28日	13	シニアホラ	8826 円
12月16日	11	シニアボラ	6833 円

参加ブース数は、法人関連施設は1としてカウント

### コンサート

今年は2回の開催に止まりました。これまでコンサートを開催いただいた音楽家との関係は維持されていますが、個人的なものに限定されており、そのスタッフが他の業務で多忙になると開催が難しくなるという課題を抱えています。

音楽は障害の有無を問わず、容易に楽しめる万国共通のもので、2013年度はより多くのスタッフがコンサートを企画できる体制づくりを急ぎます。

### 2012 年度 Tamariba コンサート

開催日	タイトル	出演者ら
2012年 6月5日	ホームコンサート	バイオリン(辻本明日香)・ピアノ(大長志野)・テノール(田中良和) 

<p>2013年 1月19日 (土)</p>	<p>カリンバコンサート</p>	<p>カリンバ(ロビン・ロイド)</p> 
--------------------------------	------------------	---

**Tamariba クラブ**

地域の子供たちとの交流を図る Tamariba クラブは6年目を迎えました。年々、内容も充実し、参加者数も安定するようになりました。特に障害者の方の参加も毎回それが前提となるようプログラムされ、地域の子供たちとの交流は着実に進んでいます。

一方、ボランティアの活用は課題です。スタッフのみではバリエーションに限りがあり、一般業務との兼ね合いもあり、学生等の力を利用することも検討する段階にと来ています。

2012年度たまりばクラブ

開催日	内 容	一般参加
<p>6月2日</p> 	<p>押し花を作ろう</p>	<p>20名</p>
<p>7月28日</p>	<p>タマリバ 留学</p>	<p>8名</p>

		
<p>9月29日</p> 	<p>ひこうきをつくろう</p>	<p>12名</p>
<p>11月10日</p>	<p>いわてを知ろう</p>	<p>2名</p>
<p>3月16日</p> 	<p>「ろうそく」をつくろう!</p>	<p>25名</p>

講座

### Tamariba 講座

ヨガ講座がメインとなりました。スペース上、10 人を超すと運動が難しくなるため、小規模の開催となりましたが、継続的に参加される方もおり、定着化を図ることができました。

また3月には被災地支援の一環として、被災地の現状を知る講座を開催しました。宮城県の現状を知るとともに、私たちの支援に関するヒントをいただきました。



開催日	タイトル	講師
4月7日	ヨガ講座	吉内貴子 4名
6月2日	ヨガ講座	吉内貴子 9名
8月4日	ヨガ講座	吉内貴子 8名
12月1日	ヨガ講座	吉内貴子 13名
1月19日	ドイツ研修報告会	スタッフ・長崎
1月26日	ヨガ講座	吉内貴子 7名
2月23日	シカゴ研修報告会	スタッフ・中
3月1日	東日本大震災における被災地と要援護被災者の現実とこれからの展望	NPO 法人「奏海の杜」 菊池正明理事長ら 3名
3月30日	「聞かせてください。親の思い」	元利用者の御家族

### 【グループホーム準備施設もくもく】

2012年11月、大正区において、社会福祉法人ゆうのゆう運営によるケアホーム「ことのは」がスタートしました。7名の重症心身障害者が新しい生活をスタートさせました。ケアホームの専従スタッフはまだ十分でなく、私たちがヘルパーを適宜派遣し、新しい生活を支えています。スタッフの配置上の課題もあり、今後は他事業所のヘルパーを利用するなどの方法も模索していく必要があります。

一方、「もくもく」については、一定の役割を終えたため、廃止あるいは別の目的使用などが考えられます。2013年度は存続を含めて検討します。

### 【成年後見人】

スタッフ 1 名が、2 件の後見と 1 件の保佐の計 3 ケースを受任しています。高齢者 2 名、障害者 1 名です。

高齢者（吹田市）は、健康状態が一進一退です。尿路感染等で入院もありました。腎臓機能も低下しています。医療的ケアが必要となった場合、入所施設ではケアを断られる可能性も高く、そのような場合に別の施設探しがどのようなものになるのか、困難なものであろうことは容易に想像できます。

別の高齢者（東住吉区）は、健康状態は問題ないものの、認知症の症状が徐々に進んでいます。以前には見られなかった「監禁されている」「家に帰る」などの言動が徐々に見られます。施設職員とも話し合いを行い、実費負担となりますが、ヘルパーを利用して外出を行い、気分転換を図るなどの試みを行っていますが、新顔のヘルパーに抵抗感を示し、なかなか成果があがっていません。

障害者（西成区）は、幻聴・幻想傾向がひどくなり、透析病院から通院を断られるなどし、後見活動が困難を極めました。精神障害者の方が別の病気等で治療を求めても、多くの病院で入院を拒否されるケースについて耳にはしてきましたが、その現実をまざまざと知らされることとなりました。

やっとの思いで探し当てた病院も、透析時の付き添いが条件でした。透析は昼間数時間を要するため、付き添い人の確保はなかなか困難です。法人スタッフのなかから有償ボランティアを募る一方、スタッフの家族にも協力をもらってしのぎました。しかし、近隣への暴力行為で警察に拘束されることもあり、後見人だけの対応では限界を感じることもしばしばでした。

障害者のケースでは、相談事業所のあり方を考えさせられました。相談事業所の通常想定される対応は、当方でも想定できます。したがってそれ以上の対応を求めたいのですが、相談事業所は自ら動くことはなく、実質的には傍観といったところでした。社会福祉士を持つスタッフが増えるなか、私たちの経験を積み重ね、新たな形態の相談支援事業所のあり方を考えてもいいのかも知れません。

## 【被災地支援】

東日本大震災（2011年3月11日発生）の被災地支援も2年目を迎え、さまざまな課題を感じた年でした。岩手県に前年度同様スタッフを継続的に派遣しました。

8月19日～31日は、沿岸部を障害者とともに歩き、障害者が住める街づくりを訴える「みちのくTRY」が開催され、スタッフも障害者介助に参加しました。またこのイベントを支援するTシャツ販売にも協力しました。

岩手県の宮古市には「被災地障がい者センターみやこ」が設置され、私たちの活動もここが拠点となりました。県外からの専従スタッフが重責を担う一方で、地元スタッフの確保、活動の発展が難しく、支援に行ったスタッフが戸惑うこともしばしばでした。当初の危機的状況を脱し、地元で根づく活動の必要性は皆が十分認識しているのですが、前に進むことがなかなかできません。

ただ、宮古市のセンターが本格稼働を始めることで、徐々に地域に認識され、連携が進む萌芽があります。

被災地支援の継続に疑問をもつスタッフもいるなか、継続的に話し合いを行い、現地でできる支援、大阪でできる支援を継続していく方針を確認しました。

一方、震災発生直後から、支援活動をリードしてきた岩手の障害者・今川幸子さんが亡くなりました。多くのスタッフが悲しみに暮れました。県外からのボランティアが圧倒的多数を占めるなかで、さまざまな不平不満を一身に受け、一方で活動を率先する苦労は、今思えば私たちの想像をはるかに越えるものだったに違いありません。早すぎる死に言葉を失います。ご冥福を心からお祈りいたします。

## 【SENDEX2012】

### 【概要】

韓国で開催される福祉フェア「SENDEX2012」(2012年8月30日～9月1日)に出展すると共に、韓国の各種団体を訪問して、「パラム・クム」のPR活動を行う。

【参加者】大槻瑞文 田代健信

### 【行程】

8月29日(水) ...関空 ソウル 台風のため出発は3時間遅延。  
会場到着後、事前に送付したパンフレットの受け取り。  
モニター画面等の設定。

30日(木) ...SENDEX1日目 終日 KINTEX 会場

31日(金) ...SENDEX2日目 大槻 終日 KINTEX 会場  
田代 ワーキングホリデー協会

purme 財団 訪問

9月1日(土)...SENDEX3日目 終日 KINTEX 会場

夜 出展他社と懇談会

2日(日)...移動日 大槻 ソウル 関空(帰国)

田代 ソウル 釜山

3日(月)...田代 ワーキングホリデー協会 韓国福祉新聞

HL ビジネス 加藤氏同行

4日(火)...田代 釜山 関空 帰国

### 【具体的PR活動】

SENDEX 会場...液晶モニター(55型)上で動画、ブース壁には写真を使って施設の様子を紹介。また、パラム・クムのパンフレット(韓国語)1000部、一般のパンフレット(日本語)200部を来場者に配布するとともに、関心を持つ方には、通訳も利用して説明、PRを行った。

団体訪問... ワーキングホリデー協会・ソウル purme 財団 ワーキングホリデー協会・釜山 韓国福祉新聞



### 【SENDEXの会場の様子・成果】

1日目は、台風の影響で終日の悪天候。来場者少なく、パンフレットも1箱分250部をようやく配布できた程度。2日目は来場者が増え、配布は好調であった。最終日の3日目は、土曜ということで期待したが、思った程度には来ず。また、3日間通しての来場者層は、教育関係者や福祉関係者がこれまでよりも少ないように感じられた。一般の方にとっては、日本という海外での研修はまだ遠い存在であり、福祉・教育関係者の来場を期待したが、今回は期待外れに終わった。来場者に対してはパンフレットの配布で積極的なPRに努めた。11月に来日する訪問看護師の訪問先確保の依頼があった。依頼者は昨年、行政関係者の訪日に関して依頼があった韓国会社の方で、今後の協力関係を確認し合った。

### 【改善点】

会場において、「新しい情報をお知らせしたいので、メールアドレスを」などと今後につながるアプローチが十分でなかった。パンフレットの作成コストを考慮し、会場では、概要とホームページにしぼったフライヤーの配布を行うことも検討する。積極的に韓国内の

団体・機関にPR活動を行う。HLビジネスが既に宣伝活動を行っている旅行会社も対象にすべきであった。

### 【今後の活動】

ニーズは、高齢者関係の団体視察にあり、この方面においては今後の可能性を感じられた。一方、当方が目論む少人数の体験型の研修プログラムの周知には、手段を変えたPRが必要だと感じた。

また、今後の活動のあり方として、2つが考えられる。当法人の存在、海外での研修を身近に感じてもらうために、ともかく団体、個人問わず、ニーズのある視察を受け入れ、実績を積むことを優先する。団体の受け入れは、当方のスタンスを壊す可能性があるため、あくまで受け入れスタイルは固定化し、PRをより広く行う。

現実的には、の方法を当面は受け入れ、PRに努める一方、徐々にのスタイルに移行していくことが理想的と考えられるが、を受け入れる間には、利用者、スタッフに抵抗が生じることも予想される。

今後の活動は、見本市会場におけるPR以外に、以下の活動を行う。

福祉系大学生の実習受入

日本国内での実績施設等に単位認定が可能となるアドバイスを求める。

福祉職員にターゲットを絞ったPR

韓国国内で福祉研修イベントに参加、PRする。

引き続き、韓国国内施設へのダイレクトメール

広告（韓国インターネットHPでのリンク、新聞・雑誌）

協力団体にリンクを提案する。

韓国会社との連携

協力できる会社との関係を強化する。

東海機器からは、KIMES（2013年3月21日～24日ソウル）での共同出展の提案があった。費用対効果、今後の協力関係、情報収集の度合い等を見極めながら検討を行う。

## 【KIMES2013】

### 【概要】

：KIMES (Korea International Medical + hospital Equipment Show / 国際医療機器 + 病院設備展示会)2013 にブース出展し、社会福祉国際研修・交流プログラム「パラム・クム（風・夢）」の参加者募集PR活動を行った。展示会の規模、会場の立地、来場者の層など、以前より出展しているSENDEXとの相違点が明らかになったほか、展示会でのPR活動では

初めてフライヤーの制作・配布を行った（従来は詳細を記したパンフレットのみを配布）。なお今回の展示会は、韓国の医療・福祉機器商社・UDCares（林琦雄社長）との共同出展となり、ブース運営の他、スタッフの宿泊先提供等、種々便宜を図っていただいた。

### **【会場】**

：韓国・ソウル特別市・江南区・COEX 展示場

### **【期間】**

：展示会 2013 年 3 月 21 日～24 日（出張期間 3/20～25）

### **【出張費用】**

- ：ブース出展費用 ... 237600 円
- ：ブース設置 + 附属設備費用（応接セット・カタログホルダ） ... 63000 円
- ：スタッフ往復渡航費用 ... 19530 円
- ：スタッフ宿泊費用 ... 0 円（UDCares 林社長宅に滞在のため）

**合計：320130 円**

例年の SENDEX 出展と比較すると、ブース出展に係る費用自体は高額となっている（SENDEX は 150000～170000 円）が、渡航費用・宿泊費用・通訳費用等を節減した結果、出張全体に係る合計費用としては同程度であった。

フライヤーの制作・印刷費用（約 23000 円）は今回の展示会以後も UDCares の協力を得て各所での配布に活用しているので「出張費用」からは省いた。

### **【出展・PR 活動の様子～SENDEX との違い】**

PR の方法

：ブースでは、私たちの活動の様子を紹介するための写真を展示し、モニターを使ってスタッフ制作のプロモーション映像や今年のクリスマス会の記録映像を放映した。また今回は、制作コストもかかるパンフレットの「ばら撒き」を避け、フライヤーを別途制作・印刷してこちらを主に配布。フライヤーを手にとって興味を示す来場者に対してプログラムの詳細を説明し、パンフレットを手渡すという方法を使った。

会場・来場者数の規模

：SENDEX の来場者数が 2012 年の実績で約 28000 人であるのに対し、KIMES は 2012 年で約 60000 人。実際に会場に身を置い



てみても、来場者数の数は明らかに今回の KIMES の方が多いと感じた。主な理由としては、会場の立地と規模が考えられる。SENDEX の会場である KINTEX がソウル「近郊」の高陽（コヤン）市に位置しているのに対し、KIMES の会場である COEX はソウル市内でも成長著しい江南（カンナム）区。人口密集の度合いにしても、アクセスシビリティの面にしても雲泥の差がある。また、SENDEX に使用される展示会場が 1 ホールであったのに対し、KIMES は 1 階と 3 階の 2 フロアを丸々抑えていたばかりか、建物のロビーも展示会場としており、出展する企業・団体数も圧倒的に多かった（SENDEX2012 = 214 社 / KIMES2012 = 978 社）。それに伴い出展費用も KIMES の方が高額となっているが、費用対効果を考えた場合、「大規模展示会での PR 活動は KIMES に一本化する」ということも一考に値するだろう。

#### 来場者層

：KIMES の来場者層は、福祉関連の施設・学校関係者、福祉機器メーカー関係者等に加え、医療関係者の来場が目立った。また、障害当事者の来場者も多数見受けられたが、私たちが日々接しているいわゆる「重症心身障害者」に該当するような方の姿は見られなかった。この点は SENDEX とも共通しているが、ソウルの中心部においてでさえも、重心当事者が街を普通に歩くということがまだ一般的ではないことを示唆していた。

#### 出展企業・団体

：基本的には SENDEX と大差なかったが、KIMES は医療機器・設備の展示がメインということもあり、手術設備・器具や各種検査機器など、治療や診察に用いる機器・設備メーカーも数多く出展していた。いずれにせよ、私たちのように、「研修・交流プログラム」という機器や設備といった「ハードウェア」に対する「ソフトウェア」を PR する他団体は SENDEX 同様稀有...というよりもほぼ皆無であったと言える。

#### 参考 大阪バリアフリー展との比較

：南港のインテックス大阪で毎年開催される「バリアフリー展」と KIMES とを比較すると、展示会の規模としては、出展企業・団体数ではバリアフリー展が 303 社（2012 年実績）と KIMES よりも少ない数字となっているが、来場者数の実績としては約 95000 人と KIMES よりもはるかに多い。来場者の中には人工呼吸器を使っている重心の方々も散見される。出展の内容としても、大阪のバリアフリー展では、設備・機器のほか、請求システムのコンピュータソフトや各種法律・制度相談（成年後見など）といった「ソフトウェア」の展示も



多く見受けられ、そうした点からも、福祉の「市場」としては、やはり日本の方が比較的成熟していることが窺える。

## **【PR 活動での反響・印象】**

### 全体的な印象

：来場者の反応としては、研修費用が高い/安い、宿泊費や食費が研修費に含まれないのか、といった SENDEX の場合と大差ないような反応が大方を占めた。一方で、ブースを訪れた医師が、医療的なケアを必要とする利用者が地域生活を送っている様子を写真や映像で見て関心を示すという場面もあった。これまではあくまでも「福祉関係者」をプログラム参加の主対象としてきたが、私たちの現場での体験を重視するのであれば、むしろ医療畑にも射程を広げ、医療者の視線を「重心当事者の地域生活」に向けることにも意義があると感じられた。

### Miki-Korea (車椅子メーカー大手) 関係者の話

：韓国は福祉の「市場」としてまだまだ未成熟。車椅子にしてもオーダーメイドのニーズ自体はあるものの、そこに公的な補助金や給付金が下りてこない。高齢者福祉に関しては韓国版介護保険(「老人長期療養保険」)制度がスタートしているが、よりオーダーメイドの潜在的ニーズが高い障害者福祉の分野については、そうした制度的な仕組みが整備されておらず、組織運営は企業や個人の寄付に、人的資源はボランティアに頼っているのが現状。「福祉」で食っていく、福祉を「市場」として成熟させるためには、福祉の制度はもちろん、国民の福祉に対する考え方や精神的風土といった根本的なところからメスを入れていく必要がある。(日本人開発関係者)

：今の韓国人の頭の中はある意味でかなり刹那的。何かに自腹を切るのであれば、目に見える見返りをそこに求める傾向が強く、長期的な視点に立った「自己投資」という考え方があまりできない状況にある。研修プログラムの「修了証」を希望者には発行することだが、その修了証に「韓国での効力」を付与する、学生であれば「単位の取得」を担保する、といった「見返り」作りが現実的には必要だろう。それができて初めてこの研修プログラムへの「ニーズ」が生まれる。そうやってニーズ自体を「つくる」ところから本腰入れて取り組まなければこのプログラムは結実しないだろう。(会社専属韓国人通訳)

## **【反省・展示会 PR 活動についての改善点】**

関係者への事前周知が後手に回ってしまい、関係者づての新たな人脈作りを能動的に行うことが出来なかった。

担当者自身の韓国語能力の不足

展示内容・方法の見直し      写真自体や写真の配置、映像の制作と見せ方、写真や

映像以外の展示媒体（パワーポイント？自主製品？ポスター様のパネル設置？）

## 【PR 活動・プログラム推進全体の今後】

専用 HP の充実（空中戦？）

- ：HP 自体は一応の完成を見ており、現在は HP にリンクさせるブログページを制作中
- ：ブログの随時更新による法人やプログラム自体の最新情報のアップロード
- ：HP のデザイン・構成の随時改善

関係機関・団体への個別アプローチ（地上戦？）

- ：韓国での PR 活動サポートを依頼している加藤氏（HL Business Support 社）からの情報を元に、こちらから直接アプローチする機関・団体（大学・マスコミ・福祉関係機関・海外研修関係機関・国際ボランティア関係機関等）を選定・接触 候補：  
崇実大学（スンシル大学/ソウル）・韓国社会福祉新聞社（釜山）...等
- ：展示会 PR 等で協力関係にある医療・福祉機器商社 UDCares 社の顧客（訪問看護師・地方自治体職員・福祉施設職員等）を対象としたプログラムの企画・実施
- ：相互に訪問経験のあるブルメ財団（障害者福祉館・障害児病院等の運営）への直接アプローチ（財団職員の研修参加を打診）

関係展示会（福祉・医療・海外研修・国際協力？）出展による PR 活動（空中戦？）

- ：SENDEX と KIMES、費用対効果を考えるとどちらかに一本化するのが適当か？
- ：あるいは総じて「福祉」への関心が高いと言われる慶尚道地方（釜山・大邱など）の展示会へ出展した方がより効果的との情報もあり

フライヤー増刷・関係各所への配布・送付（空中戦？）

- ：加藤氏・UDCares 社・ブルメ財団・ワーホリ協会等の関係機関に依頼し、従来のパンフレットよりも安価なフライヤーの配布・送付を行う
- 韓国との定期的交流活動の実績がある国内機関へのアプローチ
- ：（社福）北九州市手をつなぐ育成会・羽衣国際大学等

受け入れ態勢の整備～プログラム内容の再検討

- ：担当スタッフの韓国語能力強化
- ：韓国語対応スタッフ or 通訳の確保（人件費含む）
- ：研修費用の見直し（積算根拠の明確化等）
- ：宿泊・滞在先の安定供給・紹介？
- ：見学受け入れ先の確保・謝礼等の対応方法

## 【所感】

：プログラム本来の趣旨と完全に合致しているとは言えないものの、京畿道訪問看護師協会や Kimberly Clark Korea といった団体・企業メンバーの訪問研修受入れ実績を経て、いわゆる「やりもって」状態ではあるが着実な前進が見られる反面、他の通常業務と並行しての取り組みであることから、プログラムを推進していく上での課題の整理・解決や全体像の把握がなかなか追いついていないことも事実である。しかし、取り扱う「商品」にハードウェアとソフトウェアの違いはあるにせよ、展示会の様子や関係者とのやり取りを通じて、「何かを売り込もう」とする時の民間企業感覚、必死さを目の当たりにすると、まだまだ「余地」が残されていることに気付く。「必死さ」を意図的に引き出し、拙速であってもそれを素早く行動に繋げていく努力がますます求められる。「何のため？」に立ち返ることを忘れることなく…。

## 【パラム・クム】

韓国における PR 活動の成果もあり、2012 年度は 2 組の交流を受け入れました。

### キンバリークラーク社（ソウル）

本社は米国にあり、アジアの研究拠点がソウルにあるとのこと。3 名の韓国人が来日し、口腔ケアの実践方法の見学を主な目的として、特別養護老人ホームなどを見学しました。



商品開発につながる見学のため、具体的な目的については企業秘密との回答でした。国際交流プログラムの目的とはズレがあるものの、パラムクムの利用希望は初めてであり、今後のノウハウ蓄積のためもあり受け入れを行いました。

韓国語の通訳も帯同して本格的な見学となり、日本の口腔ケアに大いに関心を持たれた。4 月にも来日することになりました。(2012 年 10 月 22 日～24 日)

### 京畿道家庭看護師協会

韓国版介護保険もスタートし、在宅看護にも徐々に関心が広まっているようです。一行は、韓国の看護師ら約 20 人。ヒューマンライツ福祉協会（西成区）や社会福祉法人豊中愛和会（吹田市）に協力をいただいたほか、フリースペース“Tamariba”において、西成区役所保健福祉課からの出張レクチャーを実施

しました。ATC エイジレスセンターなどの体験型の施設は、私たちも盲点でした。

昼食会場を予約するなど旅行会社並みのお手伝いをさせていただきましたが、これも私たち法人には良い経験となりました。訪問看護師の見学では、日本の看護師の持つカバンの中身に大いに興味を持ち、見学後もミニ交流会が続くほどでした。

ただ見学のマナーは良いとは言えず、今後見学先の選定にあたっては、この面を十分に考慮する必要があると思われました。



### 【galerie “ 見る倉庫 ”】

見る倉庫のオープン以来、作家承知活動が思うようにできず、開店休業状態が続いていましたが、今年度は徐々に個展等が開催できました。

どこのギャラリーも集客には苦勞しているようですが、利用者さんの自主制作商品の販売と合わせて、うまく機能するよう工夫をしたいと考えています。

なお岸野真弓さんの作品は、この展覧会の後、桐野夏生さんの文庫本「ナニカアル」の表紙に採用されました。

作家との関係を維持し、今後も継続して作品展を行っていただき、常に見る倉庫がスタッフ間でも意識されるような在処となる努力が必要です。

またヘルパー派遣先の松永さんの写真展は、思わぬ視点、世界を抽出されたような作品が秀逸でした。

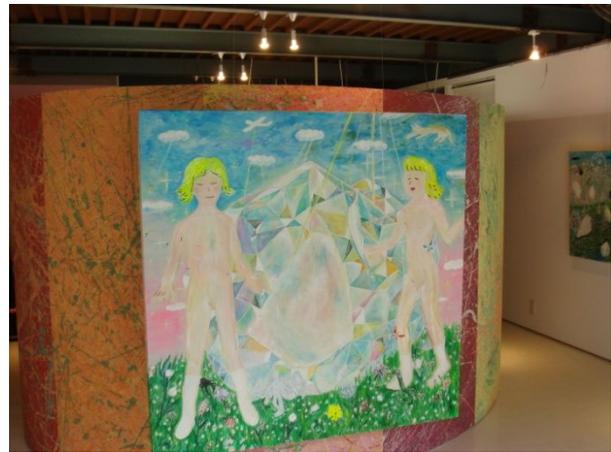
2012年7月9日～8月31日 岸野真弓刺繍展



9月10日～9月21日 川口珠生展

10月19日～11月17日  
Liquitex Artprize2012 入選作品展  
2013年1月7日～2月2日 上杉裕一 カリンバと絵画展

2月18日～3月2日 松永早也香写真展



## 【スタッフ採用】

マイナビなどを通じて6名を採用しました。

2012年度は新卒採用市場の活発化に伴い、セミナー見学会への参加学生数が減少しました。このためセミナー見学会の開催回数を増やすのですが、他事業所も同様に増やす傾向にあるため、どこのセミナー見学会も一定数を確保することに苦労しているようです。

一方、明確な目的意識、就労しようという意識がないかのように見受けられる学生が増えているように感じられます。就職をせずともとりあえずの生活はアルバイトで何とかするという意識があるようです。

インターネットを通じた採用ですので、セミナー見学会の参加者も関西の学生とは限らず、これに伴いスタッフの出身地も九州、四国、北陸など関西圏外が増えています。

## 【医療的ケア】

たんの吸引など医療的ケアの制度化に伴い、登録喀痰吸引等事業者（登録特定行為事業者）の申請を行い、受理されました。

スタッフも研修を受講し、認定特定行為業務従事者（特定の者対象）としての認定を受けました。

この制度では、利用者さんごとに可能な医療的ケアを確定し、また医師の指示書を受け、スタッフは利用者さんごとに研修を受ける必要があります。また医療的ケアの報告書を医師に提出することが求められるなど極めて煩雑な制度です。

行政が医療的ケアに関する事故を防止するためというよりも、責任回避のための制度ですが、あまりに煩雑な制度に実効性はあるのでしょうか。制度化にはさまざまな団体等からの意見があったと報道されていますが、医師団体、看護婦団体等の視点を重視するのではなく、福祉団体、つまりはその医療的ケアを担う側からの視点をもっと取り入れることはできなかったのか。「事故があったらどうする」という視点も必要ですが、その前提は「そのケアが行われず、その人の“生”が奪われたらどうする」という視点であるべきです。

## 2013 年度への課題

私たちが、重症心身障害者の地域生活を制度内だけで支えるのであれば、報告書にあるような活動はありえず、居宅介護・重度訪問介護の事業所としてのみの存在となります。

被災地支援やフリーマーケット、キッズクラブなどの Tamariba 活動は、制度外の活動です。それ自体で採算の合う活動にするには多大な労力が必要となるにも関わらず、その認識がないままに活動に従事するケースが散見されます。一方でスタッフ自身が制度内に閉じ込める、閉じこもろうとする傾向が少しずつ出ています。

NPO という社会的課題に挑戦する事業体であるにも関わらず、個々のスタッフにその目的、意志が欠ける事態は組織の存亡に関わります。それらの「意志」が消えてしまえば、NPO の存在は無用でしょう。

私たちの活動は有償ボランティアではありません。重症心身障害者の生活を豊かにする活動において、自身の生活を支える給与を得る活動と、そうではない活動とに分ける必要は本来ないはずですが、給与を得る活動すなわち障害福祉サービス制度上の活動に相当程度の労力を割かざるを得ないとしても、制度外の活動にも同等の労力を注ぐ覚悟をどのように確保すればよいのでしょうか。

それは労働環境を悪化させることになるのでしょうか。ある側面から見ればそう判断されることもあるでしょう。その側面をどう越えるのか。現在制度と

なっている福祉活動のすべては、かつては制度外でした。先人たちが制度がないなかで活動を継続し、育てた結果が現在の制度の礎となっています。もうそのような活動は不可能なのでしょうか。

## 社員総会の開催状況

名 称：「特定非営利活動法人 W I N G-路をはこぶ総会」

日 時：2012年4月11日（水）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：160人

出席者数：150人

議 案：第1号議案 2011年度決算  
第2号議案 2012年度予算  
第3号議案 運営方針

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

名 称：「特定非営利活動法人 W I N G-路をはこぶ総会」

日 時：2012年12月19日（水）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：160人

出席者数：140人

議 案：第1号議案 被災地支援の継続  
第2号議案 障害者総合支援法の施行に伴う対応

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

名 称：「特定非営利活動法人 W I N G-路をはこぶ総会」

日 時：2013年4月10日（水）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：170人

出席者数：150人

議 案：第1号議案 新卒スタッフの採用  
第2号議案 2012年度決算  
第3号議案 2013年度予算

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。



## 理事会の開催状況

日時	出席者	議案	審議結果
2012年4月25日	理事6人	2010年度決算 記録システム	全議案承認
5月25日	理事6人	被災地支援 フリーマーケット	全議案承認
6月25日	理事6人	見る倉庫 個展 記録システム	全議案承認
7月25日	理事6人	見る倉庫 個展 SENDEX 記録システム	全議案承認
8月24日	理事6人	SENDEX 見る倉庫 個展	全議案承認
9月25日	理事6人	被災地支援 SENDEX報告 医療的ケア研修	全議案承認
10月25日	理事6人	海外からの研修受入 タマリバクラブ フリマ	全議案承認
11月22日	理事6人	医療的ケア研修 タマリバクラブ	全議案承認
12月21日	理事6人	医療的ケア研修 見る倉庫個展	全議案承認
2012年1月25日	理事6人	医療的ケア研修 個別面談	全議案承認
2月25日	理事6人	内定者について 被災地支援 タマリバクラブ 医療的ケア研修	全議案承認
3月25日	理事6人	採用パンフレット作成 2012年度予算 フリーマーケット タマリバクラブ	全議案承認

監査報告書

監 査 報 告 書

2013年6月30日

特定非営利活動法人 W・I・N・G 一路をはこぶ

代 表 理 事

菅野 眞弓 様

特定非営利活動法人 W・I・N・G 一路をはこぶ

監 事

梁

英

子

印



私は2012年4月1日から2013年3月31日までの第十二期会計年度  
における会計および業務の監査を行い、次の通り報告いたします。

1. 貸借対照表、収支計算書、財産目録について、法人の収支および財産の状況を正しく示しているものと認める。
2. 事業報告書の内容は真実であると認める。

以上